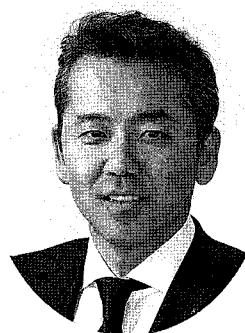


年頭のご挨拶



(一社)富山県測量設計業協会
会長 市 森 友 明

新年あけましておめでとうございます。

令和7年の新春を迎え、協会員の皆様方をはじめ日頃より当協会の運営にご理解とご支援をいただいております発注者の皆様、関係機関の皆様方に、心よりお慶び申し上げます。また、令和6年1月1日に発生した能登半島地震により被災された皆様、そして未だに復興作業が続く地域の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年1月1日の能登半島地震の発災後、協会員各社は迅速に安否確認を終え、2日から被害状況等の収集活動を開始しました。3日には各発注者様からの要請に基づき、本格的な調査・測量作業に着手し、1月末には富山県内の依頼件数は1,000件を超えました。石川県内では1月19日、石川県測量設計業協会より依頼を受け、全国に先駆けて七尾港湾施設での調査・測量を開始しました。さらには3月18日には能登町全域が富山県測量設計業協会の支援先と決定され、即座に「石川県能登町震災案件説明会」を開催。26会員37名が出席し、その後800カ所以上の調査・測量作業を行いました。

現在、富山県・石川県の対応箇所合計は約2,200カ所に達します。繁忙の中、ご協力いただいた会員企業の皆様、そして迅速にご対応いただいた発注者の皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

また、今回の協会員各社の対応は、従来以上に迅速に行われていると見受けられますが、その背景には二つの要素があると考えております。

一つ目は、簡易査定とドローンを活用した三次元測量です。これにより現地作業時間が短縮され、効率的な調査・測量につながっています。さらに設計作業の三次元化を組み合わせることで、従来の二次元図面化を省略し、さらなる効率化が図れます。災害対応における現況復旧設計においては特に効果を発揮できます。

二つ目は災害経験の積み重ねです。協会員は令和5年6～7月に発生した立山地区豪雨の災害対応を経験しており、その習熟度が向上していたことが、今回の迅速な対応につながりました。今後も当協会は三次元測量・設計技術の習得と災害経験の伝承に注力し、発注者の皆様と共に、より一層迅速かつ的確な災害対応を実現してまいります。皆様のご協力をお願い申し上げます。

結びに、当協会は本年度60周年を迎えます。秋には記念式典を開催予定であり、この節目を迎えられることも、ひとえに発注者様をはじめ関係各位、そして会員企業の皆様のご支援のお陰です。新たな一年は皆様にとって素晴らしい年となりますよう心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。